

子どもの心を耕す読書のすすめ

1999年「国際子供読書年」、日本では同8月、国会で2000年を「子ども読書年」に制定し、国民が協力して、子どもへの読書推進運動がいろいろな形で行われた。

「読書は心の栄養素」といわれるように、読書は子どもの心の成長にとって大切なものであることは、誰もが認めることである。

しかし、子どもに限らず「活字離れ」「読書離れ」が聞かれるこの頃である。

そこで、子ども読書年の目標である「本を読むことの楽しさを知ってもらう」「親子や家族、友達がいっしょに本を読むことで人間的なふれあいを共有してもらう」「読書の習慣を身につけてもらう」を子育ての中でどう考えどう実行していけばよいのかを、自分の経験をもとに述べてみたいと思う。

なぜ、子どもにとって「読みきかせ」が大切なのか

1. 「読みきかせ」は「読書力=想像力」を育てる

子どもと本との出会うきっかけの一つに「読みきかせ」があります。子どもはその成長過程で「すばらしい本」と数多く出会うことで、自由に「創造力」を広げ、「感動」や「よろこび」「人を思いやる気持ち」を持った「豊かなこころ」を育てていきます。

読書力は“文字を読む力”ではなく“言葉を聞く力”だといわれています。耳で聞いた言葉が豊かであればあるほど読書力も豊かになり、言葉を理解できるようになるのです。

子どもたちが「読みきかせ」が大好きなのは、その時と場や、言葉を親、友達、先生と共有できるからであり、それは、読み手にとっても、とても楽しいものになります。

2. 読書好きな子どもを育てる第一歩は語りかけと歌

生まれてまもない赤ちゃんに、絵本の読みきかせを始めるのは、まだ早いと思っていませんか。今は、0歳児からの絵本も増えてきています。読みきかせに早すぎることはないのです。テープレコーダーではない、親や家族の温かな声で読み聞かせましょう。

しかし、その前に十分な語りかけと歌(童謡)が大切だといわれています。赤ちゃんを見つめながらの語りかけは、赤ちゃんの心を安定させ、愛されているという充実感を与えます。また、童謡のリズミカルな言葉は覚えやすく、語彙の獲得に役立ちます。赤ちゃんは、お母さんの顔を見ながら、一生懸命言葉を聞こうとします。このような「語りかけと歌」の前提があってはじめて乳幼児が絵本を楽しめるようになるのです。

味

アラカルト

あらかると

平成十三年十一月三十日 金曜日、県新聞教育研究協議会主催の岩手県小・中学校新聞コンクール結果が、岩手日報紙上に掲載された。県内各地の小・中学校、PTAから約一千五百点の作品応募があった。

北上市内の小・中学校からは、黒沢尻北小学校、口内小学校、和賀東小学校、和賀西小学校、北上中学校、上野中学校の六校が参加した。

PTA広報の部では、保護者らしい緻密な調査活動に裏付けられた記事が認められ最優秀賞、優秀賞など上位を独占した。NIEスクラップの部では、小・中学校とも創意工夫とアイデアいっぱい作品が他を寄せ付けず最優秀賞、優秀賞に輝いた。また個人新聞の部では、全校あげて取り組み、多数の入賞者を出す学校など北上地区のレベルの高さがうかがえる。学校新聞・学級新聞も含め、さら

Q : 見出しとリードはどう違うのでしょうか？ 教えてください。
(北上市 P T A 広報委員)

見出しとリード

見出し

リード

黒北小 P T A 広報 北陽 7 0 号

黒北小 P T A 広報 北陽 6 6 号

見出しは 記事の顔

その記事の内容を短い言葉で表現した、いわばその記事のキャッチコピーでもあります。読者の関心を引くようなものがないと思います。

リードは 記事の要旨

見出しの次に来るのがリードです。リードはその記事の要旨であり、要約した部分でもあります。また、その記事の導入部にあたる重要な部分ですから、記事の内容の要約と共に、記事を取り上げた理由などが入ってくることもあります。

インスタントコーヒー



ふつうのお湯を入れるだけのインスタントコーヒーも、電子レンジ
で加熱（30秒～1分）すると、本格的とまではいきませんが、ただの
お湯を入れただけよりコクが増します。お試しください。

ちょっと

ひとやすみ

知ってます？

こんなこと

知っていることより知らないことを

県小中学校新聞コンクールの「講評」より

記事内容によっては、すでに過去のものとなり、読者がよく知っているものも見られました。「結果より未来を」「知っていることよりも知らないことを」書くようにし、より素晴らしい新聞になるようにしたいものです。より読みやすい・より読みたくなる新聞にするためにも、誤字、脱字、正しい文字、書き方などに気を付けていきたいものです。

「岩手日報」11月30日(金)より

今年度の県小中学校新聞コンクール
審査会...11月12日(月)
表彰式...12月1日(土)
会場...岩手大学附属小学校

左の文章は、コンクールの審査委員長である藤野洋太郎 県新聞教育研究協議会副会長の「講評」から注意したい事について抜粋したものです。新聞作りをする上で基本的なことですが、つい忘れがちなことではないでしょうか。

しんぶんまめちしき

その6

明治の珍新聞 あれこれ ?

新聞を発行する目的はいろいろあり、種類や内容も目的に応じていろいろ工夫されています。明治初期の新聞も工夫されたなかなか珍しい(おもしろい)新聞がありました。今回は、明治初期の珍しい新聞をいくつか紹介することにします。

郵便はがき新聞号外

はがきの郵送号外でも、当時は速報であったと思われます。そのころの新聞、特に大新聞の配布には、まだまだ郵送がかなりの部分を占めていたことがわかります。

写真新聞

写真の実物を貼付した新聞で、写真新聞の第一号です。写真が紙面に印刷されるためには、網目版の出現を待たなければならず、日本では明治三十年代半ば以後の事で、それまでも写真の活用には、いろいろ工夫がこらされていました。

さらに、明治二十一年、磐梯山噴火の時、「読売新聞」が写真画というものを掲載していますが、これは写真を改良銅板に複写して印刷したものです。

日出新聞

これは滑稽な新聞といえますが、八百号記念に色刷り付録として発行した「ウソ新聞」四ページです。

末尾に「正誤 本日の紙上に掲載せられし事項は、ことごとく事実無根の由、どなたよりも申し越しこれ無きにつき、ひとまず取り消し致す。なお、再録の上一千号の紙上に詳報することあるべし。」とあります。少しふざけすぎた新聞です。

【太陽コレクションかわら版 新聞 「明治の珍新聞」より】



新聞記者による授業と講習

11月21日(水)13時50分～
会場：北上市立口内小学校
主催：口内小学校
北上地区新聞教育研究協議会

ぴぴっと研究会の会員5名も参加し、プロの新聞に対する使命感に感心してまいりました。

1. 第5学年児童への社会科授業「情報発信について」

講師 朝日新聞社盛岡支局長 木瀬公二氏



新聞の役割や調査報道の考え方について、具体例を挙げて分かりやすく話されました。

子どもたちは、真剣に聞き、夕刊が刷られていくまでの実物に目を見張っていました。

参観者からは、「プロならではの貴重な話でした。」「人間として生きていく上で大切なことが含まれていました。」「子どもとのふれあいがあればもっとよかった。」という感想が聞かれました。

2. 教師対象の講習会「スクラップについて」

講師 岩手日報社編集局整理部第2部長 白根晃三氏

スクラップの基本は「楽しくつくること」なそうです。興味のある記事を切り抜いて学習に役立ててほしいと、スクラップの効用や方法、ワークシートの活用などについてお話しいただきました。

途中、新聞発行の苦労話や、ぴぴっと会長の実践に基づくアドバイスもあり、参加者は「さっそくやってみよう。」と意欲に燃えていました。



ぴぴっと相談室開催中

新聞についての疑問から子育てのちょっとした悩みの相談etc.何でも気軽にご相談ください。

TEL・Fax:0197 64-0758

E-mail: agi@titan.ocn.co.jp

編集後記

世の中では様々な事件が次々と起こり心が暗くなることも多いこの一年でしたがぴぴっととしては新しく新聞を読んで今を語る会「まうすりい」を立ち上げたり自己研修に励んだりと美り多い年だったように思います。
皆様よいお年をお迎えください